

令和7年度 旭川歯科学院専門学校
学校自己評価結果報告書（集計）

令和7年7月9日

1. 学校の教育目標

＜教育目標＞○良き社会人を目指す ○豊かな心を磨く ○歯科衛生士としての優れた技を磨く
＜基本方針＞＊具体的な方策
重点目標 学習指導・実習・実技及び行事などあらゆる学習活動において、謙虚さを育み、気節を鼓舞し、創造への意欲づけを図る。
経営計画 職員全員が学校経営に積極的に携わり、個々の意見が反映する機運を尊重する。

2. 本年度の重点課題（目標及び計画）

- 1 教育 合格率100%（国家資格） 就職率100%
- 2 各種感染発生に注意を払いながら、地域社会との密接な連携を保ち口腔衛生の普及に尽力し、積極的な社会貢献に努める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 建学の趣旨と教育の方針（教育理念・目標）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・学校の建学の趣旨と教育の方針は生かされているか。	4	3.2	3	2	1	3.2	3.4
・将来的展望を踏まえて学校の将来構想が描かれているか。	4	3	2.8	2	1	3.1	3.3
・学校の建学の趣旨・教育の方針・将来構想は学生・保護者等に周知されているか。	4	3.0		2	1	3.4	3.1

① 課題

- ・ 合格率100%に向けたサポート。
- ・ 旭歯管内での就職率向上。
- ・ 少子化の中、未来に続く入学者数の確保。
- ・ 学生数が100人未満の場合、職員の体制、定員数の検討が必要になる。優秀な学生を入学させるための検討、工夫。
- ・ 学校の教育方針等、遠い将来については難しいが、在学期間内においてはある程度知っていると思う。機会あるごとに周知していく。
- ・ 少子化、社会的変化に伴い学生数確保ができない時にどうするか、社会的ニーズを常に考え、それに対する教育内容の検討、地域社会との密な関りを積極的に行う。

② 今後の改善方策

- ・ 専任教員によるきめ細かなサポート。
- ・ 多くの方々に建学の趣旨・教育方針を周知し、多くの人には選ばれる魅力ある学校作りを行う。
- ・ DHという職業が認知されつつあるが、今後さらなる啓発、会全体で活動していく。コロナ禍により中止していた学校祭を昨年7月に再開した。

③ 特記事項

- ・ 令和7年新入生から新カリキュラムに変更した。

(2) 学校経営方針（学校運営）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・教育理念・目標に沿った学校経営方針が策定されているか。	4	3.2	3	2	1	3.2	3.4

・学校経営方針に基づき、組織は有機的に機能しているか。	4	3 (2.9)	2	1	3.1	2.9
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	(3.1)3	2	1	3.4	3.3
・地域社会等に対するコンプライアンス体制は整備されているか。	4	(3.1)3	2	1	3.3	3.3
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	(3.1)3	2	1	3.3	3.3

① 課題

- ・物価高騰に対して、安定的にベースアップできているか。
- ・教員の給与（ベースアップ）について。
- ・全ての教職員に対して働きやすい組織作り。
- ・学校経営方針が策定され、管理職、教員、事務職員の連携が取れてきた。全員で問題点を共有し、解決する姿勢をしっかりと持つ。
- ・地域への関りを増やしていく中で情報公開を適切に行う。
- ・人数的には整備されている。個々の質の向上を図り、組織を有機的に機能させるためにどうするか。

② 今後の改善方策

- ・教員としての習熟度合いによつての給与のレベルアップ。
- ・講習会参加や教員としての資質向上度合いによつては、給与のレベルアップを図るなど検討する必要がある。
- ・慣習に倣うのも大事だと思うが、社会の変遷、時代の変化に則った細かなルール作りを行い、明文化することで全ての人が納得できる組織づくりが大切だと思う。
- ・学内での意思統一、会全体との連携、とくにセンターとは。学生教育に欠かせない施設なので、実習機会を増やしていく必要がある。

③ 特記事項

- ・衛生士科の教員としてのレベルアップもそうだが、教育者としての習熟も必要と考えます。

(3) 教育活動（各学年指導計画）

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年	
・教育理念・目標に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3.4	3	2	1	3.4	3.3	
・カリキュラム（実習等を含む）は体系的に編成され、学習時間の確保が行われているか。	4	3.4	3	2	1	3.4	3.3	
・成績評価・単位認定・進級・卒業の基準は明確化されているか。	4	3.2	3	2	1	3.2	3.4	
・教育の方針（人材育成）達成に向けた授業担当教員を確保しているか。	4		3	2.6	2	1	3.1	3.0
・教員の先端知識・技能等の習得及び指導力育成などの資質向上のための取り組みは行われているか	4		3	2.3	2	1	2.6	2.4

① 課題

- ・一部の科目で内容、授業時間が早く終わるなど、十分とは言えないものがある。
- ・研修の機会はあるが、自主的な参加は限られている。
- ・知識が古すぎて、アップデートされていない。
- ・個々の知識等、アップデートのため、研修を学院内外で年に数回行うべきかと思います。（主に技能を）
- ・変化する歯科医療に対して、対応できているか。

- ・教員のレベルアップ。
- ・教員の確保、資質向上。
- ・全学生の知識、技術の向上を図る。
- ・今年の新入生からの新カリキュラム、経験の浅い教員の教育体制を整え、質の向上を図る必要がある。
- ・校外研修、学会への参加、さらに校内研修の充実を進めなければならない。
- ・変化する考え方への対応、新しい技術をいかに導入するか。ベテラン教員からの指導、教育をより強化するにはどうするか。

② 今後の改善方策

- ・教員の先端知識・技能習得や指導力養成の取り組み。
- ・教員の先端知識・技能習得及び指導力育成などの資質向上のための取り組みを積極的に行う必要がある。
- ・人材への投資や研修強化。
- ・各学生の能力の幅が大きいと思うので、教員の知識・技術のアップデートが必要だと思う。また、様々な学生を教育するにあたって教育スキルのアップデートも必要だと思う。
- ・校外研修、学会への参加、校内研修の充実、個々人の意識改革。

③ 特記事項

- ・1年生から新カリキュラムで開始している。

(4) 学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年	
・就職率の向上が図られているか。	4	3.4	3	2	1	3.6	3.6	
・国家試験合格率の向上が図られているか。	4	3.5	3	2	1	3.4	3.5	
・退学率の低減が図られているか。	4		3	2.6	2	1	2.8	3.6
・卒業後の生徒のフォローアップがなされているか。	4		3	2.7	2	1	2.6	3.4

① 課題

- ・学生の質の低下の防止。
- ・卒業生のフォローアップ。
- ・様々な状況、状態にある学生または卒業生への対応。
- ・国試対策のベースを作り、その学年の成績状況に合わせ全体で対応していく。
- ・学生個々の把握、悩みに対する寄り添い、生活指導の強化。
- ・卒業生には元担任を中心に、相談があれば対応を迅速にする。
- ・学生の能力に個人差が大きく、1年次から基礎力up、学習習慣の定着をいかに図るか。

② 今後の改善方策

- ・最低限の基礎学力のある学生を入学させる。
- ・卒業生に関しては、DH向けのオンラインセミナーもたくさんある中で、そういった情報をHPに張り付けるなどして活用してもらいたいと思われる。
- ・各人が考える問題点についてよく聞いて、可能な限りの対応をするのがいいと思うが、時間内の対応で行い、教職員が時間外にまで対応しなければならない状況ならば、それは良くないと思う。
- ・模試等を細かく分析、1年次から成績下位の学生に介入し、能力に応じた対応が必要。

③ 特記事項

- ・今年3月国試の現役合格率は100%であった。

(5) 学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3.4	3	2	1	3.6	3.5

・学生の相談に対する体制は整備されているか。	4	3.3	3	2	1	3.1	3.2
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4		3 (2.9)	2	1	3.1	3.2
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3.1	3	2	1	3.1	3.3
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4		3 (2.9)	2	1	2.8	3.0
・保護者と適切に連携しているか。	4	3.1	3	2	1	3.3	3.2
・卒業生への支援体制はあるか。	4		3 (2.6)	2	1	2.8	3.1

① 課題

- ・卒業生に対して学校としての支援は特になし、担任任せになっている。
- ・地方学生への配慮、経済状況悪化に対しての就学支援。
- ・経済的支援。
- ・学生の進路支援については十分だと思う。
- ・休職DHの復職支援の充実。
- ・卒後教育の充実。
- ・相談体制は担任を中心に、学校医とも連携は取れている。家庭の経済状況の急激な悪化への配慮、地方学生への配慮、学生の生活環境への支援等が課題となり、卒業生についてはいつでも相談可だが、同窓会、衛生士会との連携も必要になる。
- ・経済状況の悪い家庭もあり、就学困難になった時の援助をどうするか。

② 今後の改善方策

- ・地方からの志願者に対しての支援を明確にし、保護者に伝わるようにする。
- ・奨学金・補助金等の検討を幅広く行う必要がある。
- ・システムの構築、もしくは多くの方々の協力を得られるのかを検討する。
- ・会として返還義務のある奨学金はどうか。(免除規定を含め会員診療所との連携も考える。)

③ 特記事項

・

(6) 教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4		3 (2.9)	2	1	3.3	2.9
・学内外の実習実施施設等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3.2	3	2	1	3.3	3.0
・防災に対する体制は整備されているか。	4	3.2	3	2	1	3.3	3.4

① 課題

- ・従来の環境に慣れてしまっていて、最善の教育環境がイメージできていない。
- ・今後、どこまで設備投資していけるか。
- ・さらなる模型実習、相互実習の充実。
- ・実習先診療所との連携強化、実習先により教育内容に違いがあり、そのバランスをどうするか。その施設の特徴をいかに把握するか。
- ・防災マニュアルの作成。

② 今後の改善方策

- ・他校の見学等で、新しい知見を取り入れる。
- ・設備投資の優先度を明確にする。
- ・環境の整備、時間の確保の検討をする。

- ・ 連携強化、反省会等での問題提起、マニュアル化、少しずつのデジタル化の推進。

③ 特記事項

- ・ 昨年3月に模型実習室が整備された。

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・ 学生募集活動は適正に行われているか。	4	3.4	3	2	1	3.6	3.5
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3.2	3	2	1	3.4	3.5
・ 学費等納入金は妥当なものとなっているか。	4	3.2	3	2	1	3.4	3.3

① 課題

- ・ 少子化が進む中、いかに学生を確保するか。
- ・ 少子化またはそれ以外の理由による入学者数確保の難しさ。
- ・ 学校訪問、OC、相談会等を積極的に行い、オンラインも活用していく。会員とさらなる連携強化。
- ・ 専門学校、小さな単科の学校の良さをアピール。
- ・ 学生数減、様々な物価高もあり、R7年4月入学生から授業料年10万円up。
- ・ 少子化が進む中、いかに学生を集めるか。旭歯会員個々の協力が必要。

② 今後の改善方策

- ・ SNS等の活用、地方の学生への情報発信。
- ・ 中学生など若い世代への周知活動。
- ・ 既存の活動の強化、改善。
- ・ SNSの利用、コマーシャルの活用。
- ・ 対象になりうる生徒の保護者への働きかけ、周知活動。
- ・ 進路指導教官への依頼強化。
- ・ DH、DT会、同窓会との連携を考える。旭歯会員一人ひとりの強い自覚。

④ 特記事項

- ・ インスタの活用などバージョンアップされていると思う。
- ・ 昨年からDH会旭川支部の活動内で、本校のアピールを積極的に行っている。（本校職員が現在副支部長。）

(8) 財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・ 中期的に学校の財政基盤は安定しているか。	4	3	2.8	2	1	3.2	3.5
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3.0		2	1	3.5	3.4
・ 財務について会計監査が適正に行われているか。	4	3.4	3	2	1	3.7	3.6
・ 財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3.4	3	2	1	3.7	3.5

① 課題

- ・ 物価高や設備の老朽化に対する修繕費の確保。
- ・ 学生の確保。
- ・ 今後、経営的指標がますます厳しくなることが予想されるが、経営情報の共有ができていくか。
- ・ 入学者数が減少した場合の財政への影響。
- ・ 学生数減少が続けば、長期的に経営困難になる。その場合、体制、とくに人件費の検討が必要。

② 今後の改善方策

- ・ とにかく学生数を確保すること、授業料up。
- ・ 経営的デッドラインを明確化し、会員や学院職員に周知する。
- ・ 節約、無駄の削減、既存コストの見直し。
- ・ 安定した入学者数の確保。
- ・ まずは学生数増、だが、令和7年4月新入生から授業料年10万upした。

③ 特記事項

(9) 地域社会貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1				←昨年	←一昨年	
・臨地実習等を通して生徒・教員による地域社会貢献を行っているか。	4	3.2	3	2	1	3.3	3.1

① 課題

- ・ 地域にもっと学院の存在を認知してもらう。
- ・ 現状の地域社会貢献以外にできることはないかを検討する。
- ・ 地域貢献に対する教職員の自覚は、どの程度あるか。

② 今後の改善方策

- ・ 学校祭など、積極的に市民と関わる機会を設ける。
- ・ 市民フォーラムみたいなものに学生が参加して、歯科衛生士の周知を兼ねた社会貢献ができればいいと思う。
- ・ 地域への口腔衛生普及に対する意識upをはかる。

② 特記事項

- ・ 子どもから高齢者まで幅広い啓蒙活動が行われていると思われる。
- ・ 昨年7月から学院祭を再開した。

(10) 法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや適切：2、不適切：1					←昨年	←一昨年
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運用がなされているか。	4	3.6	3	2	1	3.6	3.7
・個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか。	4	3	2.9	2	1	3.1	3.4
・学校自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2.8	2	1	3.0	3.3
・学校自己評価結果を公開・活用しているか。	4	3	2.9	2	1	3.3	3.5

① 課題

- ・ 自己評価は実施されているが、全て改善されているわけではない。
- ・ コンプライアンスの強化。
- ・ サイバーセキュリティーが不十分か、学校自己評価は改善途上であり、活用がまだ十分ではない。
- ・ 個人情報の取り扱いについて、職員一人ひとりに強い自覚が必要。

② 今後の改善方策

- ・ 複雑な社会になってきているので、時代の変化にあった改善または修正は常に必要だと思う。
- ・ 一つ一つの問題点を整理検討し、協議を始める。

③ 特記事項

・